

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202296		
法人名	有限会社 いこい		
事業所名	グループホーム胡桃(くるみ)		
所在地	長崎県佐世保市黒髪町4522		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受理日	令和5年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JizyosyoCd=4270202296-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和5年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度もコロナ禍、市中感染流行拡大によりイベント中止を余儀なく判断することが多くありました。例年、夏祭りや餅つき大会等様々なイベントを通して地域の方にも参加して頂き、地域に開かれた高齢者介護に理解を頂いています。また四季に合わせた事業所室内壁紙や玄関に創作を行い利用者様をはじめご家族様、ご近所様に喜んで頂ける様努めています。コロナ禍が続く大変厳しい状況ですが、高齢者介護の勉強をさせて頂いている大切な期間と捉え、コロナに負けず、毎日笑顔絶えないアットホームな介護事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは市街地から程よく離れた郊外の高台に位置した静かな環境の中にある。近所の住民から地元の食材を差し入れてもらったり、相談事があれば管理者へ気兼ねなく尋ねて来るような関係性ができ地域に溶け込んでいる。ホームの庭で野菜を育て、夏には収穫したゴーヤを食卓に並べたり、行事食を拘りを持って提供する等、入居者の食の楽しみに繋がるよう取り組んでいる。現在、コロナ禍で外出ができない中、試行錯誤し、フロアの壁に日本地図を貼り、都道府県ごとの名産品の写真や、絵を日々追加して貼り、ご当地の名物料理を食事として提供する等、入居者へ旅行気分を味わってもらえるよう工夫している点は大いに評価できる。ホームには永年勤務の職員が揃っており、管理者が職員の意思を尊重し、職員個々の能力や意欲を活かした入居者支援がホームの強みとなっている。コロナ禍収束後は、外出支援や地域との活発な交流を再開し、ホームの特色を活かした更なる支援の展開が大いに期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名グループホーム胡桃

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員で掲示や研修を通して共有し、明るく、楽しく、また心暖かく過ごして頂けるように努めており一緒に楽しみながらケアにあたっています。	職員は、理念にある入居者が明るく楽しく温かく生活できる支援の実践に努め、近隣住民から地元食材を差し入れてもらったり、地域住民から相談を受ける等取り組んでいる。理念は職員が目につく場所に掲示し、理念に沿った支援により入居者の生活を支えられるよう努め、研修を通じて振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で施設外イベントへの参加は厳しい状況ですが、地域の方々が気軽にホームへ来所して下さります。困りごとの相談や協力の要請等もあり地域の皆様との繋がりを大切にしています。また季節の果物や野菜などのおすそ分けをして下さり住宅の隣近所のように受け入れて下さっています。	コロナ禍でホームや地域の行事には互いに参加ができない中、隣家からの差し入れや、地域住民の相談を受ける等、地域の中に溶け込み馴染みの関係ができています。地域住民にホームの実情を理解してもらい、ホームの特性を活かした交流を継続しており、これまでの地域との繋がりがホームの強みとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染症感染予防の観点から大きなイベントを開催できませんでしたが、例年は夏祭りや餅つき大会、消防訓練に参加して頂き交流しながら理解して頂けるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員や利用者様の状況報告、研修や身体拘束・事故等についての報告やその他意見交換などを行っています。コロナ禍の為、文書を作成し郵便にて照会対応を行っています。	コロナ禍により、現在、運営推進会議は書面会議にて行っている。ホームの活動状況や、職員の研修内容等について書面で各委員へ報告し、当該報告内容に対する意見等を記述する用紙を同封し郵送している。	委員から意見等が返信されているが、議事録への掲載がない。各委員から挙げた意見や質疑応答内容等を反映させた議事録(又は報告書)を作成し、家族等がいつでも閲覧し確認できるよう取り組むことが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の方への定期的な報告や突発的な事案についても報告、連絡を行いアドバイス等頂きながら協力体制を構築に努めています。今年度は運営指導も行って頂いています。	管理者は運営上の不明点等を市長寿社会課へ相談している。生活福祉課の職員には入居者の定期的な病院受診の合理化について相談し、介護タクシーの利用が可能であることの助言を得るほか、コロナ感染時には保健所の指導を受け感染拡大の予防を図る等、不明な点は放置せず、管理者が関係各課へ出向いて解決できるよう取り組み、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間での情報交換や情報を共有し、身体拘束をしないサービス提供を心掛けています。また令和6年に向けて委員会を設立。研修で学ぶ機会を作っています。	身体拘束防止について佐世保市グループホーム連絡協議会主催の研修に参加したり、管理者が作成した資料をもとにホームで内部研修を実施している。研修後、職員は研修記録を作成して振り返りを行い、身体拘束の弊害について理解を深め、入居者支援に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について共通の認識を共有できるよう研修で(コロナ禍の為web開催ですが)学ぶ機会を設けています。各職員間で情報や知識を共有できるように努め職員間で虐待を見過ごされないように注意喚起できるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要なケースは管理者、支援専門員が対応する事となっています。また研修にて学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、その他改正等の際は時間をとり分かりやすく説明するように努めています。利用料金、その他についても管理者が説明を行い理解・納得頂ける様に努めています。改定時には施行前に説明・同意を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時に各種相談窓口について説明し玄関にも意見箱を設置しています。また運営推進会議、管理者会議、胡桃会議等にて反映させるように努めており、ご家族様にはお便りや電話連絡など行いご報告やご意見を尋ねるようにしています。	玄関に意見箱を設置し、家族や外部の意見を聞く姿勢を示している。コロナ禍により玄関先で家族との面会を実施しており、家族の意見や要望等を聞き取った職員が記録に残し、管理者への報告や他の職員が記録を閲覧し、口頭で聞き取る等、情報の共有を図っている。入居者の表情や発せられた言葉等からも要望や意見の把握に努めている。	指針改正を踏まえ、家族等へ重要事項を説明する際には、第三者(外部)評価の受審状況として、実施の有無、評価機関名、評価結果の開示状況を重要事項説明書に明記すると共に、外部評価の受審時には家族へアンケート調査があり客観的に家族意見等を汲み取る機会となる旨を伝えることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行い代表者、統括部長、管理者らとすべての職員が参加し職員1人1人が意見や提案ができるような場を設けています。また日頃から意見や提案を聞いており、また聞きやすい環境に努めています。	職員は月1回の会議を通じて意見や提案を述べる機会があり、ホームの運営に活かしている。また、日常的に管理者に対しその場で意見を伝えることができる。代表者、統括部長、管理者と職員間の風通しの良い関係性を日頃から築いており、職員がやりがいを持ち、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度・資格取得・研修費用の負担・育休習得・子育て支援など各職員が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備について整っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種資格取得できる体制を整えており、法人内外の研修を積極的に受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はリモートとなるが多かったが、グループホーム協議会が開催する研修や勉強会に参加しています。また同法人他事業所の管理者や職員との交流ができサービスの向上に努めています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや生活歴を確認の上、傾聴しながらしながらお話をさせて頂いています。また意思の疎通が難しい方でもその表情や発語などを探りながら安心して頂けるよう努め職員全員で共有できるように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様にはもちろんの事、ご家族様が抱える問題や不安要望に沿えるように誠意をもって耳を傾け情報収集とそのアセスメントを行い利用者様のニーズに沿ったサービス提供ができ、その評価が正確にできるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急に対応が必要な相談者様には可能な対応を柔軟に行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人の出来ることを職員全員で考え家庭で過ごしているような空間を大切に、同じ時間を過ごしているという関係を築くように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の対応や、面会・買い物・イベント時の参加などをして頂き支援者として意識を持って頂いています。またご家族様にはお便りや電話で連絡を都度行い共に支え合うように協力して頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出が難しいですが、出来る範囲以内で感染予防に留意しながらお自宅に戻られたりしています。また思い出の出来事や場所などをお尋ねし傾聴しながら思い返して頂くように支援しています。	入居時に入居者本人や家族等から入居以前の生活歴等を聞き取り、馴染みの人や場の把握に取り組んでいる。家に帰りたいと入居者より希望があれば職員が同行するなど、コロナ禍の中、ホームでできることを検討しながら入居者が大切に思っている気持ちに寄り添い支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が連携し情報を共有しながら性格や相性などを把握し共通の話題や趣味を取り入れながら利用者様同士の会話が成立し楽しく過ごせるような場所や支援を提供しています。またレクレーションや家事支援の中で利用者様同士が協力出来る場を作るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もまたお伺いします。とおっしゃられるご家族様もおり、状況報告もして下さります。終了後もご相談があれば利用者様やご家族様のお話を傾聴するよう心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人、お一人の思いやご本人様らしい生活のあり方について職員間で検討しています。意思表示が困難な利用者様にはユマニチュードを意識したケアに努めています。	職員は日常生活の中で入居者との会話や表情からその方の思いの把握に努めている。入居者一人ひとりが望む暮らし方や希望について、職員間で話し合い、言葉や感情の表出が困難な入居者には職員が、「見る」「話す」「触れる」「立つ」といったユマニチュードの視点で向き合い、入居者本位に検討し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時より情報収集を行いご本人様の生活歴、家族構成、これまでを把握しサービスの内容やその達成についても毎月評価を行い経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の残存機能を意識して、穏やかに過ごせるように関りながら、出来ないところを手伝うよう現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時よりご本人様やご家族様のお話をお尋ねし、まずは暫定で計画書を作成。状況を確認し共有しながら支援します。意見を出し合い、サービスの内容を再検討し実施後、新たに介護計画を作成しています。毎月モニタリングを行い介護計画の達成度について検討しています。	職員が入居者のモニタリングを実施し、介護計画の見直し時に介護支援専門員との会議で検討して介護計画の原案を作成している。日々の記録はパソコンに入力し、計画したサービス内容に沿った支援が実施できているかを職員が確認しており、入居者個々の情報を全体で共有できるシステムとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録と実践を行うように努めています。またケア中の状況を記録に残しご本人様の状態、状況が1冊のファイルで分かるように個別にファイルを準備しています。気づきがある度申し送りし職員で共有し必要時に計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	プランに沿った支援を行うのはもちろんですが、柔軟な支援が出来るよう職員同士でフォロー仕合い対応しています。予想外な出来事もあるため臨機応変な支援も行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で厳しい現状ですが地域住民の方との交流や民生委員様や区長様と意見交換する機会を設け安全で豊かな暮らしが出来るよう努めています。現在もよく挨拶を交わすので交流は切らしていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医が訪問診療に来て下さっています。急変時や夜間等も対応して下さいます。それ以外を希望される方はご家族様にも協力して頂き職員と連携して受診対応を行っています。	入居者はホームのかかりつけ医による定期的な訪問診療を受けることができ、それ以外のかかりつけ医を受診する際には、職員が入居者の健康管理票を持参し、心身状況の情報を医師に伝えている。他科受診等の場合は必要に応じて家族に協力を得ており、受診後に報告を受けている。職員が受診に同行した場合は薬の変更等必要に応じて家族へ報告し、家族に安心してもらえよう留意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と一緒に情報共有をしながら看護職員が健康管理票を記入し記録を残しています。またホームのかかりつけ医にも毎月確認して頂き急な変化があっても対応できるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行っています。また退院時にはソーシャルワーカー、ご家族様と協力しながら早期に退院できるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所の方針の説明を行い同意を得ており、記入して頂いています。また重度化された場合にも意見を踏まえて職員と協力医と密に連携して安心して最後を迎えることができるよう心掛けています。	入居時に本人や家族へ看取りに関する指針について説明している。看取りの時期については、協力医が判断し、再度家族へ意向を確認し、介護計画の見直しを行っている。本人の状況変化時にはホームの看護師が駆け付けられるよう体制を整えており、職員の不安軽減にも繋がっている。家族の希望に応じて特別養護老人ホームへ転所できるよう連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いつでも確認出来る所に急変時対応マニュアルを作成しており職員全員が把握できている。また研修を行い消防の方よりも指導を頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災、災害想定のもと避難訓練を実施し年に一度は消防消防立会いの下、総合避難訓練を実施しています。コロナ禍の為地域の方とはできませんでしたが、毎年協力して下さっています。対策に関しては防火管理者の指示にて日常的に点検を行ってある。	年2回、夜間の火災・災害想定を中心に入居者と共に訓練を実施している。地震や火災マニュアルを各職員に配布し、勉強会時にマニュアル内容の確認を行っている。訓練内容や反省点、訓練時の状況を撮った写真を添付し記録を残している。全職員が消火器訓練を経験し、初期消火ができる技術を身に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として日々気を付けるようにしています。家庭的な面も同時に大切にしているため親しみある言葉や地元の方言を使いながら声掛けや対応を行っています。	入居者を尊重する気持ちを忘れず、ホームを自分の家と感じてもらえるよう方言を用いた会話により親しみを込め、本人や家族の希望に応じて呼び名を使い分け、楽しみながらホームの生活が送れるよう心掛けている。職員は接遇マナー研修を受け、個々に研修記録を残している。ホームだより等の入居者の写真は家族の同意を得て掲載している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な方もおられますが出来るだけ自己決定を促す支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り個々のペースを大切にし希望に沿って過ごせるような支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身でしっかり鏡を見ながら整容される方もいます。できない方は職員が対応しています。訪問カットに来て頂いており、ご家族様と美容室に行かれる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	目で見て楽しんだり季節や祝い事等の食事に力をいれています。また施設に植えた野菜を収穫し調理をして提供し楽しんで頂けるように努めています。調理の下ごしらえやテーブル拭き、茶碗洗い、茶碗拭き出来る事を協力して頂いています。	ホームは行事食に力を入れ、冬至にはかぼちゃを素材としたメニューや、イベント系の職員が雛祭りをイメージした行事食を考えて提供する等、食事を楽しめる支援に努めている。ホームの敷地内で栽培した野菜を食材として提供したり、本人の能力に応じてできることを入居者に行ってもらう等、入居者に役割が持てるよう創意・工夫を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定での把握や排尿、排便チェック、血液検査等を考慮し必要時は看護職やかかりつけ医に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っています。自立支援により状態に応じた介助をしております肺炎予防に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立以外の方は、トイレ誘導を定期的に行いホワイトボードに記入し排泄状況を毎日記録しています。	職員は、入居者の表情や落ち着きがなくなる行動等を見極めながら排泄のタイミングを察知し、排泄誘導に繋げている。入居者個別の排泄状況をホワイトボードに記入し、排泄間隔を把握して失敗がないよう入居者個々の排泄支援を行っている。夜間のみ使用するポータブルトイレは昼間は布を被せ、居室の生活環境整備に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄記録をとっています。ヨーグルトや牛乳野菜などの提供や毎日の体操の実施。便秘日数に応じて看護職と共有。必要時はかかりつけ医処方の下剤等に対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は火曜、木曜、土曜、日曜としていますが入居者様の希望があれば臨機応変に対応できます。入浴剤やゆず湯、菖蒲湯等、季節に応じた入浴を提供しています。	週4回、曜日を決めて入浴を実施しているが、入居者の希望があればいつでも入浴ができるよう努めている。管理者は入居者が不安なく立位保持ができるよう手すりを増設した。また、季節が味わえるよう菖蒲や、柚子、入浴剤を使用し、入居者がリラックスして楽しく入浴ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来る限りリビングにて過ごして頂いていますが、横になりたいと希望される方の対応は行っています。起床や就寝時間は個々に合わせ支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は看護職が管理しています。処方される処方箋を個々のファイルに綴っており、いつでも確認出来るようにしています。変更等があれば申し送りや記録で全員が周知出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩、家事支援、レクレーションなど個々の得意分野を生かしながら役割を持って頂き張り合いを感じて頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、出来ていたことが全くできなくなり外出もできていません。壁に日本地図を作製し47都道府県の名産を提供しながら旅行気分やその土地の食事を提供できるよう継続中。コロナ禍が落ち着けば外出については実施したい。	コロナ禍により、戸外に出かけることができない中、屋内でできることを工夫し、フロアの壁に日本の各地名産品の写真等を貼り、名物料理を食事の際に提供するなど、入居者のストレスの軽減に努めている。今後は、春の花々を目で楽しめるよう花見の計画を立てるなど、コロナ感染状況を見極めながら外出支援計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で所持されている方おらず、ご家族様・施設で対応している。ご本人様やご家族様からお預かりしたお金はきちんと管理し必要な場合は対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持され掛けたりかけられたりされています。また電話がかかってきた場合やかけたい時には取り次いでいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をしており特に外部から訪問して来られても排泄等の匂いがないように努めています。また壁を使って季節に応じた行事や雰囲気を楽しめるように作成しています。暑さや寒さの空調や空気清浄器を使い居心地良く生活出来よう工夫しています。	日中は入居者が共用空間で居心地よく過ごしており、季節に応じた掲示物を飾ったり、ゆったりと寛げるソファで入居者同士の会話が弾む環境を整えている。日々清潔保持に努め、タイミングを計って換気等を行っている。次亜塩素酸水を使用して手すり等の要所を拭く等、コロナ感染防止対策を講じている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのフロアには大型のソファとリビング用テーブルを設置しておりゆっくりと過ごせるようにしています。また一人になりたい方は居室にてテレビを観たりと思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にはご家族様にも説明し居室には、使い慣れた家具や布団、写真や思い出の品が持ち込まれ居心地よく過ごせるように工夫しています。	入居時に持ち込み品について入居者や家族に説明している。火気類や刃物類、高額装飾品以外は以前から親しみのあるものを持ち込んでいる。各居室は入居者が在宅時からの生活を継続でき、落ち着いた環境下で心地よく過ごせるよう居室の環境整備に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態や残存機能に出来るだけ合わせ「出来ること」「出来そうな事」を考え見守りながら安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう心掛けています。		